

令和7年度 高崎麓小学校 学校評価報告書

【学校経営ビジョン】

一人一人を大切に、小規模校の特色を生かした教育活動を展開するとともに、学校・家庭・地域が一体となった取組により、子どもたちのよさや可能性を伸ばし自信をもたせる教育を推進する。

※ 右側の外部評価欄に4段階評価の点数、コメント欄に気付かれた点や感想などを御記入ください。
4段階評価
【4・・・期待以上 3・・・ほぼ期待通り 2・・・やや期待を下回る 1・・・改善を要する】

評価項目	評価指標	数値目標	肯定的な回答の割合(%)			自己評価に対するコメント(○成果 ●課題)	自己評価	改善方策	外部評価	学校関係者のコメント
			児童	保護者	教師					
学力の確かな向上	1 基礎的・基本的な内容の確実な定着のための授業改善	○全国、みやぎ学力テストの県平均以上、単元テスト期待平均点以上	100	94	100	○単元テストで目標点を達成した児童が多く、教師の支援が行き届いていたこと、また保護者からも学力の定着が進んでいるとの評価が得られた。 ●知識の定着にとどまらず、深い学びにつながるような取組の充実が課題である。	3	○児童が自ら考え、対話や振り返りを通して学びを深める授業づくりをさらに進める。 ○今後も小中一貫の約束事を意識し、継続して取り組めるよう指導と支援、工夫を行う。 ○対話や振り返りの場を充実させ、学んだことを活用・表現する活動を取り入れる。 ○家庭での活用方法を分かりやすく伝え、保護者と連携しながら継続的に取り組める環境を整える。 ○家庭で読む時間の確保を呼びかけるとともに、家読カードや共有の仕組みを通して、読書の継続を促す。 ○家読のねらいや方法を分かりやすく伝え、保護者と連携して継続しやすい工夫を進める。	3	○みんな一生懸命取り組み、発表もよくしてると感じます。先生方の教えも分かりやすいと思います。 ○ AIドリルの活用や、読書の習慣について取り組みが保護者からは不十分ではないかと結果が出ているが、子どもはAIドリルに対して、抵抗なく取り組んでいるのではと思う。 ○読書の習慣もそれぞれ個人差があると思うので、読み聞かせなどを通して、本に対するの興味は高まっていると思う。 ○どの面においても、学校の取組の成果が見られていると思う。学力も基本的な生活習慣が身に付いている分、家庭学習なども身に付いていると感じている。 ○学習においては、ICT化が進み、児童がゲーム感覚で楽しんで学習している様子が伺われる。良いことだと感じている。今後も継続してキュビナ等活用してもらいたい。 ○読書に親しみをもっている児童が多い。くれよん号が来るのも楽しみにしているようだ。
		○「高崎地区学習の心得」を守って学習することができた児童が80%以上	94		100	○小中一貫の約束事を意識し、継続して守りながら学習に取り組んでいる。				
	2 児童一人一人に応じた指導方法・体制の工夫・改善	○授業が「分かる」とする児童が80%以上	100	94	100	○児童・保護者・教師のいずれもが「授業が分かる」と肯定的に捉えている。 ●理解を実感にとどめず、思考を深める学びへと発展させる必要がある。				
		○授業、家庭学習でのAIドリルの積極的活用	94	57	100	○AIドリルの活用について、児童・教師ともに肯定的に捉えている。 ●家庭での継続的な取組が十分でない点が課題である。				
	3 読書活動の推進	○年間読書冊数、低学年100冊・中学年80冊・高学年60冊以上	94	56	100	○多くの児童は年間の目標冊数を達成しており、教師による継続的な指導・支援の成果が表れている。 ●家庭では読書に取り組みず、借ること自体で満足してしまっているのかもしれない。				
		○「月1回は家読に取り組んだ」とする家庭が80%以上	94	64	100	○月1回の家読について、教師の働き掛けにより児童は肯定的に取り組んでいる。 ●保護者の回答から、家庭での取組が十分に広がっていない。				
豊かな心の育成	1 基本的な生活習慣の定着	○児童アンケート「生活のきまりを守っている」とする児童が80%以上	100	81	100	○基本的な生活習慣について、児童・保護者・教師ともに肯定的に捉えており、望ましい習慣が身に付いてきている。 ●生活習慣が十分に定着していない児童への継続的な支援が課題である。	3	○家庭と情報を共有し、共通の目標をもって継続的に取り組めるよう働き掛けを行う。 ○日常的な声掛けや複数の相談窓口の周知により、安心して相談できる環境づくりを進める。 ○一人一人の思いや実態に寄り添い、安心感と居場所づくりを意識した支援を継続する。 ○学校・家庭・地域が連携し、場面に応じたあいさつの大切さを継続して指導する。	3	○表現が最高であると感じている。英語での掛け合いもとても感動した。 ○授業参観を通して、子どもたちが意欲的に取り組む姿勢、楽しんで学校生活を送っているのが伺えた。 ○卒園児で心配していた子どもも落ち着いて過ごし、行事を見ていても、心の成長も感じられた。 ○読書は保護者が全てを見ている訳ではないので見届けは難しい状況がある。
		○心のアンケートを活用し、いじめ早期発見・早期解決100%	75	77	100	○いじめ等の早期発見を目的にアンケートや教育相談を実施し、児童の状況把握に努めている。 ●相談しやすさについて、児童・保護者の中に遠慮している様子が見られる。				
	2 いじめのない学校	○学校が楽しいと感じる児童が100%	94	100	100	○子どもが「学校が楽しい」と感じられるような教師の取組が進められており、保護者からもその姿が伝わっている。 ●一部の児童が「あまり楽しくない」と感じている点が課題である。				
		3 表現力の育成	○あいさつや返事がしっかりできたとする児童が80%以上	94	84	100				
健康教育の充実と体力向上	1 健康で安全な生活習慣の定着	○ふもとっ子ががんばり週間の早寝・早起き・朝ご飯の達成率90%以上	90	86	100	○早寝・早起き・朝ご飯の習慣について、教師・保護者・児童ともに肯定的な意見が多く、基本的な生活リズムが整ってきている。 ●子どもが早く起きることが難しい家庭がある点が課題である。	3	○家庭の実態に配慮しつつ、段階的な目標設定や具体的な工夫例を示し、無理なく改善できるよう支援する。 ○家庭での具体的な取組例や効果を共有し、保護者と連携した継続的な働き掛けを行う。 ○一人一人の実態に応じた運動機会を確保し、継続的に取り組める工夫を進める。 ○時間や場面を変えた訓練を行う。	3	○体力面は、スポーツ少年団等の活動が都城へ一元化している状況が見られている。放課後も家で外遊びをしている児童も少なくなっているため、学校の体育や昼休みの活動で体力向上を目指してもらいたい。 ○運動会を見て、勉強だけでなく、健康・体力向上も最高だと感じている。 ○メディアコントロールは、学校からの働きかけも大きいと感じ、子どもたちができているとの事で、家での決まり事が守れているのかなと思う。 ○家庭での習慣化に課題が見られるので、保護者への啓発をしつつ、基本的な生活習慣を身に付けることの大切さを指導したり、保護者が自分の問題と捉えるよう理解を促したりしていくことが大切だと考える。 ○高崎町の町起こしが進んでいる最中である。児童が成長しても高崎町に就職できる魅力ある高崎町作りを目指したい。 ○挨拶は通りすがりの車にも会釈をする様子が見られた。以前のように一列に並んで挨拶をするような場面は児童数減少により見られなくなったが、一人ひとり挨拶できていると思う。
		○学期に1回、メディアコントロールについて家庭と連携を図り、できたとする児童が80%以上	81	53	100	○メディアコントロールについて、教師の指導が行き届いており、多くの児童が「できている」と感じている。 ●保護者の肯定的な回答が半数にとどまり、家庭での実践に差が見られる。				
	2 体力の向上	○体力テストの結果を踏まえた取り組み実践100%	87	85	100	○体力テストの結果を分析し、様々な対策を講じる中で、児童も意欲的に体力向上に取り組んでいる。 ●運動量や体力の伸びに個人差が見られる。				
	3 安全教育の推進	○年間3回以上の避難訓練の実施 ○子ども目線に立った安全点検の月1回実施	100		100	○年間4回の避難訓練を計画的に実施し、児童も落ち着いて行動できている。 ●想定外の状況への対応力をさらに高める必要がある。				
家庭・地域と一体となった教育の推進	1 学校運営協議会を中核とした地域との連携	○授業への地域人材・素材の活用年間5回以上			100	○地域との連携について、教師・児童・保護者のいずれも満足しており、地域を大切に思う子どもが育っている。 ●連携の取組が一部に偏りがちで、さらなる広がりが求められる。	3	○新たな学習機会を開拓し、地域との関わりを継続・発展させていく。 ○共通理解を深め、指導内容や方法の連続性を意識した実践を継続する。 ○配信方法や周知の工夫を行い、保護者が見やすく、アクセスしやすい発信を進める。	3	○学校からの情報、連絡とても助かっているし、楽しみにしている。 ○地域との連携が密にできていると感じ、地域の方に子どもたちは支えられながら、安心して学校生活が送れているのでは、と思う。 ○地域との連携は、地域の方々非常に世話になっているので、ありがたいばかりであるが児童数減少が懸念材料である。 ○学級通信、学校だよりを保護者がよく目を通している。ホームページは学校外の方々も閲覧されている。
		○家庭・地域との連携に関する満足度80%以上	97	80	100					
	2 小中一貫教育の推進	○小中一貫教育の共通実践を効果的に取り組んだとする職員が80%以上			100	○合同研究会や小学校間の合同学習に計画的に取り組む、小中一貫教育の実践が進んだ。 ●取組の成果を日常の授業や指導により一層生かす必要がある。				
3 学校からの情報発信	○月1回の学校だより等の発信やHPの定期更新、きめ細かなメール配信		68	100	○学校からの情報発信に計画的に取り組む、内容の充実が図られた。 ●保護者のホームページ閲覧が少なく、情報が十分に届いていない。					